

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！

「成田用木強」自主耕作地破壊を許すな

今秋二期着工を狙う

日刊 動労千葉

84.6.27 No. 1675

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

三里塚で中曽根を倒せ

中曽根内閣の「戦後政治の総決算」攻撃は、核搭載米原潜をためらうことなく入港させるところにまでいきついている。

この軍事大国家・改憲攻撃のぐり押しをまのあたりになすすべもなく総屈服を深める労働運動、既成左翼の「たたかい」を尻目に、唯一、三里塚闘争は実力闘争を貫き、反動攻勢と対決し勝利的に闘いぬいている。

そうであるがゆえに、敵権力の二期着工にむけた反対同盟圧殺攻撃はより激烈化している。

三里塚闘争の帰すうに労働者人民の未来がかかっており、なんとしても勝利し、中曽根内閣を打倒しなければならない。

猛スピードで総決算される戦後政治

中曽根の「戦後政治の総決算」が何を意味することばであったかは、今日歴然としている。

昨年「日本列島不沈空母」「四海峡封鎖」「シーレーン防衛論」等、一連の発言は、単に口先だけのものではなく、防衛費のGNP一％枠突破、59中業、靖国公式参拝、教育臨調、沖繩の最前線基地化、F16の三沢基地配備等々、そのための施策が次々と貫徹されてきている。

さらに中曽根は、レーガンの核戦争政策を全面的に支持し、核トマホークの太平洋艦隊配備を歓迎したばかりか、「核使用は保有国の勝手」と発言し、軍事大国化・改憲の道を猛スピードで突き進んでいる。

中曽根の狙いは「三里塚」と「国鉄」

とりわけ、中曽根の軍事大国化・改憲攻撃の最大の基軸が「三里塚」と「国鉄」にむけられ、さまざまの破壊攻撃が加えられてきている。

「三里塚」を敵がどれ程重要視しているかは、第二次中曽根内閣に千葉二区から山村農水大臣、水野建設大臣が登用されたことをみれば一目瞭然である。

敵の狙いは三里塚二期工事着工にあるのだ。

政府・公団、権力は、今秋から八五年二期着工を公言し、そのための最大の障害である反対同盟破壊に全力をあげており、脱落派をも利用した成田用水七月着工と自主耕作地破壊を開始し、現地は緊迫した事態を迎えている。

一方、「国鉄」に対しても、「一時帰休制導入」をはじめとする首切り攻撃を打ち出した当局が、ついに「国鉄分割・民営化賛成」の総裁発言をもって、いよいよ国鉄労働運動破壊攻撃は決戦局面に突入した。

中曽根を「三里塚」で打倒せよ

ところが、中曽根の反動攻撃のすさまじさのまに、労働運動指導部、社・共は対応不能に陥りまさに総転向、総屈服状況にある。

とりわけ動労「本部」革マルは、政府・自民党国鉄当局の尖兵になり下り、「自民党との共闘」「経営参加」を方針化し、闘う国鉄労働者に襲いかかることで生きのびようとしている。

彼等は三里塚闘争を「スパイの運動」などと敵対し、反核闘争についても「トマホーク配備はソ連のSS20に対抗するために必要」と称し、6・24反トマホーク闘争から逃亡したように、あらゆる戦線で労働者人民の闘いに敵対を強めている。

こうした状況を許すならば、中曽根の侵略戦争を阻止できないばかりか、再びアジア人民の殺りく！長崎・広島をくり返す結果となるのだ。

なんとしても、激流をせき止めねばならない。

その最大の武器が三里塚だ。

中曽根の反動攻撃と唯一対決し、実力闘争を貫く三里塚闘争の帰すうに労働者人民の未来がかかっている。

三里塚二期着工阻止闘争の大高揚を実現し、反動中曽根内閣を打倒しよう。

第3回講座のご案内

日時 六月三〇日(土) 13時~17時

場所 動力車会館(国鉄・東千葉駅前)

講義 「マルクスの思想体系」
—資本主義の社会と国家—

講師 立正大学教授 浅田光輝氏

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！